

自己評価報告書

2023 年 5 月 1 日現在

学校法人滋慶学園
東京ウェディング・ホテル専門学校

2023 年 5 月 6 日 作成

目 次

1 学校の概要等	1	基準5 学生支援	36
学校の概要	3	5-16 就職等進路	37
自己点検・自己評価に対する姿勢	4	5-17 中途退学への対応	38
学校関係者評価委員会の構成と意義	5	5-18 学生相談	39
教育理念	6	5-19 学生生活	41
学校の目標(今後5年間)	7	5-20 保護者との連携	43
学校組織の整備	8	5-21 卒業生・社会人	44
本年度の重点課題	11		
基準1 教育理念・目的・育成人材像	12	基準6 教育環境	46
1-1 理念・目的・育成人材像	13	6-22 施設・設備等	47
		6-23 学外実習、インターンシップ等	49
基準2 学校運営	15	6-24 防災・安全管理	50
2-2 運営方針	16		
2-3 事業計画	17	基準7 学生の募集と受入れ	52
2-4 運営組織	18	7-25 学生募集活動	53
2-5 人事・給与制度	20	7-26 入学選考	55
2-6 意思決定システム	21	7-27 学納金	56
2-7 情報システム	22		
基準3 教育活動	23	基準8 財 務	57
3-8 目標の設定	24	8-28 財務基盤	58
3-9 教育方法・評価等	25	8-29 予算・収支計画	60
3-10 成績評価・単位認定等	28	8-30 監査	61
3-11 資格・免許取得の指導体制	29	8-31 財務情報の公開	62
3-12 教員・教員組織	30		
基準4 学修成果	32	基準9 法令等の遵守	63
4-13 就職率	33	9-32 関係法令、設置基準等の遵守	64
4-14 資格・免許の取得率	34	9-33 個人情報保護	65
4-15 卒業生の社会的評価	35	9-34 学校評価	66
		9-35 教育情報の公開	68
		基準10 社会貢献・地域貢献	69
		10-36 社会貢献・地域貢献	70
		10-37 ボランティア活動	72

学校の概要

1. 学校の設置者

東京ウェディング・ホテル専門学校は、学校法人 滋慶学園が設置しています。
学校法人滋慶学園は、共通の理念のもとに専門学校を全国に運営する滋慶学園グループの構成法人になります。

2. 開校の目的

本校は、学校教育法に基づき、おもてなしの心と、ウェディング分野にかかわる知識と技術を備え、ウェディングのプロセスにおいて、お客様の夢を具現化することを通じ、顧客満足を最大化できる「ウェディングの真のプロ」を養成することを教育の目的としています。

3. 校長名、所在地、連絡先

学校長 土田 雅彦 所在地:東京都江戸川区西葛西3-1-15 連絡先 03(5676)3901

4. 学校の沿革、歴史

2009年 4月 厚生労働省指定美容師養成施設、東京都専修学校の認可校として学校法人 滋慶学園「東京ベルエポック美容専門学校」を開校
2010年 4月 ウェディング業界の変化に対応して、東京ベルエポック美容専門学校にブライダル科を設置
2012年 3月 東京ベルエポック美容専門学校、ブライダル科1期生卒業
2014年 4月 学校法人 滋慶学園「専門学校 東京ウェディングカレッジ」開校 ウェディング科を設置
2016年 3月 専門学校 東京ウェディングカレッジ、ウェディング科 1期生卒業
2017年 4月 ウェディング科 定員増(入学定員 80名 から 120名へ)
第2校舎竣工 所在地:東京都江戸川区西葛西3-22-14
2018年 4月 国際ホテル科(2年課程 入学定員40名)設置
2020年 4月 東京ウェディング・ホテル専門学校 に校名変更
2021年 4月 ウェディングプランナー科(3年課程 入学定員40名)設置
ウェディング科(2年課程)の入学定員変更 120名 から 80名へ
国際ホテル科 を 国際ウェディングホテル科(1年課程 入学定員40名) へ 名称変更および修業年限変更
2022年 4月 国際ウェディングホテル科 を 募集停止
2023年 4月 ウェディング科 修業年限変更 (2年制 から 3年制へ)

5. その他の諸活動に関する計画(防災計画)

東日本大震災の被害状況を教訓に、定期的に地震・津波・火災を想定した防災訓練を実施している。合わせて緊急地震速報、安否確認メール・LINE のテストも行い、災害に備えた体制を整えています。

自己点検・自己評価に対する姿勢

2005 年 3 月に発表された文部科学省「専修学校の振興についての協力者会議」報告の中に、専門学校を持つ職業教育力の特徴は、「専門的な教育と職業観を涵養する教育とが一体的かつ効率的になされている」点にあると記載されています。学生一人ひとりを目指す職業に向けて専門的にも人間的にも一定のゴールに向けて育成する教育、つまり職業人教育※1は、専門学校においてのみ可能なことであると考えます。

本校は、一人ひとりが目標を達成できるよう、職業人教育の正しい目標設定と目標に到達させる教育システム※2の開発に取り組んでいます。

実践的な職業人教育を目的とした自らの教育活動、学校運営について、社会のニーズを踏まえた具体的な目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について自ら評価、公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図っていきます。

※1 職業人教育：職業人教育を我々は以下のように定義しています。

職業人教育＝キャリア教育（職業人として必要な基礎的な知識・技能・態度の教育）＋専門職業教育（特定の職業に就くための専門的知識、技能、態度の教育）

※2 教育システム：広義の教育システムを 5 つの要素で位置付けています。

- ①「養成目的と教育目標」（養成目的はその学科の社会的ニーズ、教育目標は卒業時到達目標）
- ②「目標達成プロセス」（カリキュラム、学年暦、時間割、シラバス）
- ③「目標達成素材」（教科書、教材、教育技法）
- ④「目標達成支援人材」（担任、専任講師、非常勤講師、スクールカウンセラー等）
- ⑤「評価基準」（透明性、公平性、競争性）

学校関係者評価委員会の構成と意義

自己点検・自己評価を行うにあたり、学校関係者評価委員会を組織します。

本評価委員会を組織することによって、学校の教育活動そのものの質の向上、学校運営の改善・強化を推進していきます。

学校関係者評価委員は

- ・学生の保護者
- ・卒業生
- ・関係業界関係者及び企業関係者
- ・高等学校
- ・地域住民

などの関係者で構成し、自己点検・自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明を行い、学校関係者からの理解と参画を得て、意見や評価をもらいます。

学校関係者評価委員会を活用し、学校の現状について適切に説明責任を果たすとともに、地域における学校関係者と学校との連携強化を推進し、日々教職員の教育力・運営力向上に努めていくことを約束いたします。

教育理念

実学教育

【特定の職種で、即戦力となる専門的な知識・技術(テクニカルスキル)を身につけます】

実学教育の要となる教育システムが LT2 教育システムです。LT2 教育システムは、見て(LOOK)、体験して(TRY)、聴いて(LISTEN)、考える(THINK)というプロセスで学習する「体験学習」に重点をおいた教育システムです。体験することにより、知識や技術を言葉で知っているだけでなく、身体で記憶するものとなります。その上で聴くプロセスを経ることで、納得性が高まり理解が深まるため、考える事にスムーズに移行させられる様になります。そのため、問題にぶつかった時に自分自身の頭で考え、実行する力を身につけることが出来るようになるのです。

また、資格取得の必要がある場合は、それに合格しうる知識や技術を身につけてもらうことが何より大切と考えています。

そのため、専門職として業務の遂行に必要な資格を確実に合格するよう万全の指導を行っています。

人間教育

【いかなる職種でも必要な、プロとしての身構え・気構え・心構えを持った職業人を養成します】

日頃の学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になっています。学内には、『今日も笑顔で挨拶を』の標語を掲示し、「笑顔であいさつ」を習慣にする指導にとりくんでいます。授業や研修等の様々なカリキュラムを通じて基本的なマナーはもちろんのこと、各々の職種で必要とされる、プロとしての身構え・気構え・心構えを持った職業人育成に力を入れています。

国際教育

【より広い視野でモノゴトを捉えることが出来るよう、国際的な感性を養います】

プロとして仕事をする上で、海外からのお客様や取引先と接する機会はますます増えていきます。ウェディング、ホテルの分野で先進的な取り組みをしている海外の企業や施設などに赴き、学ぶことができる海外研修を実施しています。自国を知り、異国を知る。それぞれの比較を行う事から視野の広がりを促し、価値観や文化の違いを尊重できるよう導きます。

学校の目標(5年間)

5 ヵ年の目標(2019 年度から 2023 年度までの 5 年間に、以下の目標を達成します)

1. 入学定員の継続的充足
2. 退学者率目標 3.8%
3. 就職率 100%(就職者率 88%)

目標の意図

1. 学校運営の基盤は安定的な学生募集であり、教育・就職実績の総合評価であると捉えています。
その中で、継続的に定員を充足していくことは最も基本的な目標設定といえます。
2. 専門学校の中退がきっかけでニート、フリーターになるリスクは高く、その予防は社会的使命といえます。
また、中退は学生個人の問題に帰属すると捉えず、私たちの教育力、学生への支援力に課題があると捉え、その質の向上に取り組んでいます。
3. 職業準備の目的を持つ専門学校では、学生が学んだ専門性を活かし全員就職を実現することが、専門学校の教育力の価値になると考えています。

目標を達成するための方策

1. 3 年制教育

従来の 2 年制教育では入学後の約半年間で就職活動に臨む準備を強いられるため、本来しっかり構築されるべき職業観や就労意識の醸成に充てる期間が短くなってしまう。3 年制への移行により、従来の教育よりも上記 キャリア意識を高める教育に注力し、目的意識喪失からの退学者を抑制し、より質の高い卒業生を輩出し、業界への貢献を高めていきたいと考えています。

2. 「学校での学びと現場での学びがリンクする」現場体験教育の推進

イメージ先行で入学しがちな学生の将来像を確固たるものにする為に、学外・学内の両場面において職業観を養う教育プログラムを提供していきます。

① ウェディングビジネスモデルの理解 ② 各業種の具体的な業務内容理解 ③ 各業種間のリレーションのあり方 といった、より実学的な内容について学校で学び、さらには実際の現場での経験を重ねていく事で、ウェディング・ホテル業の仕事観・職業観の昇華を目指します。

3. 「自ら考え、行動できるプロを育成する」自律・協働教育の推進

社会の変化、業界の変化が激しい現代において、自分の意思で考え行動できる力を身に付けていることが求められています。

学校での指導・支援両面において「自律・協働」の 2 つの基本姿勢を育む教育を掲げ、教育活動を計画・実行していきます。

4. FD活動の強化 ※FD(Faculty Development の略) 教育力向上のための実践的取り組み

学生一人ひとりに目標をクリア出来る力を習得させる為に必要な授業力、教授力の向上を図ります。

講師研修会の実施や公開授業、授業アンケートを通じて質的向上を図ります。

学校組織の整備

① サッカー型組織

私たちの学校は大きく 4 部門(教務キャリアセンター部、広報センター、学生サービス)で構成しています。
それぞれの部門で働く教職員の職務分掌は、固定しているものと、変化するものがあります。
機に応じて役割が変化し、通常の役割を越えて働くことを良しとする、サッカーのような組織を理想としています。

② 職務分掌

理事会	法人理事長	滋慶学園グループの運営方針に基づき、法人の学校方針実現に向けて助言・諸活動を行う。
	常務理事	滋慶学園グループの運営方針に基づき、グループ校の運営方針の決定を行う。
	学校長	建学の理念を体現し、教育、指導運営において、周知徹底に寄与する。
	運営本部長	常務理事を補佐し、グループ校の運営方針を遂行するとともに、各学校責任者の指導、助言を行う。
教職員	事務局長	学校責任者として事業計画を作成し、学校運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	事務部長	学校運営にかかわる全ての業務について、事務局長を補佐し事業計画実現にむけ諸活動を行う。
	教務・キャリアセンター部長	学校運営全ての業務において、事務局長を補佐し、事業計画実現に向け諸活動を行う。特に教育方針とキャリア支援について学校の事業計画達成に向け、実際の教育に関する運営を行う。
	学科長	学科の事業計画の作成、運営にかかわる全ての意志決定の責任を負う。
	ハウスウェディングプランナー	HW 運営プログラムに関する、マネジメント(チーム・講師・外部)および、担当チーム運営、顧客窓口担当、次年度に向けた新規接客を行う。
	FDC (FacultyDevelopmentCoordinator)	学校毎に教育力【1. 計画:カリキュラム 2. 運営:授業 3. 評価:試験フィードバック】向上のための教育システム改革項目について分析し、改革案を作り、改革実施を評価し、修正提言する。
	広報センター長	学校広報目標について、事務局(次)長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	キャリアセンター長	学校就職目標について、事務局(次)長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その実現に責任を負う。
	学生サービスセンター長	学校予算の管理、教職員、及び学生の環境整備について、事務局(次)長の監督のもと、各リーダーと連携をとりながら、その向上のための責任を負う。
	スタッフ職	個別業務の執行について、上長の監督のもと、全般的な意思決定を行う。事業計画、教育目標達成に向けた業務、プロジェクトや委員会活動など部署横断的な活動に対し積極的にその諸活動を行う。

学校組織の整備

③ 意思決定システム(コミュニケーション一覧)

方 法	目 的	実施回数	主催者	対象者
理事会・運営協議会	滋慶学園グループ運営の最高決議機関。	7 回／年	理事長	常務理事・指名者
EAST 戦略会議	最高議決機関。戦略及びその実行計画を決定する。戦略実施の中間チェックを行なう。参加メンバーが戦略作りの要諦を学ぶ場である。	6 回／年	常務理事	運営本部長・指名者
分野戦略会議	複数校からなる分野グループ。EAST 戦略会議に基づく年間目標達成に向けた実施チェックをおこなう。教職員の目標達成力、ならびに問題解決力を育成強化する。	1 回／月	運営本部長	運営本部長・事務局長・事務部長・教務部長・指名者
運営会議	グループ戦略会議に基づく学校毎の事業計画作成、実施チェックを行なう。教職員の目標達成力、ならびに問題解決力を育成強化する。	2 回／月	事務局長	全教職員
プロジェクト	事業計画達成に向けて、部署を横断的に組織する活動。例：業務改善委員会、ハウスウェディング運営プロジェクト etc	適宜	リーダー	プロジェクトメンバー
O・N・O ※	相互の情報交換や特定の問題、状況、関心事について、時間をとって話をするにより、スタッフ、トレーニーへノウハウやスキルを伝え、問題発見、解決力を高める。	適宜	マネージャー・トレーナー	スタッフ／トレーニー
講師 O・N・O	授業運営、教育方針の徹底をはかり、問題発見、解決、改善の機会とする。	1回／年	教務部長	講師
TBM(ツールボックスミーティング)	問題解決の場として適宜実施し、業務の改善を図る。	適宜	教職員	関係教職員
朝礼・終礼	お互いの問題発見の報告、対策の周知の場とする。	毎日	事務局長	全教職員
議題・議事録	議題配信：事前準備を促し、会議への参加意欲を高める。議事録配信：決定事項の内容確認や伝達に活用する	適宜	主催者・書記	参加メンバー全員

O・N・O:ONE・ON・ONE ミーティングの略 1 対 1 の面談

学校組織の整備

④滋慶教育科学研究所

滋慶教育科学研究所(略称 JESC、以下 JESC という)は、滋慶学園グループ傘下各校の教育の質的向上を目指す一般財団法人です。

本校が参加する JESC の主な研究、研修活動には以下のものがあります。

滋慶教育科学学会	滋慶学園グループの各校の教育実務・技法等の研究成果の発表、社会貢献に資するための教職員の研鑽と人材 育成の場として毎年開催しています。
JESC 教育部会	関連する学科、コースを設置している学校群で部会活動を行なっています。活動内容は、情報収集、 資格試験データ分析・データ管理、講師、実習、求人の相互活用、模擬試験 問題作成などです。
JESC 国家試験対策センター	学校の枠を超えた学校間連携を図り、同じ分野を教える学校が協力し、国家試験の傾向、学生 の能力・動向といった情報を収集・分析します。合格に最適なカリキュラムと学習法を構築し、全員合格を目指して国家試験に向けた授業のサポートを行います。
マネジメント研修	マネジメントに携わるマネージャーを対象に研修を行ない、学校運営マネジメント力の向上を目指しています。
教職員カウンセラー研修	すべての担任と学生と接点を持つ全教職員に対して、2年間にわたってカウンセリング研修を受けることを義務付けています。カウンセリング研修で得た知識や技術を活かし、学 生カウンセリングを行なっています。
OJT トレーナー研修	新入職者に対してのトレーナーとして、必要なマインドやスキルを学びます
新入職者研修	学園に入職して仕事を始めるにあたって、学園の理念や原理原則を理解し、自分らしさを活かして仕事を楽しめるよう研修を行なっています。

⑤学内研修体制

私たちの学校は、学内において学習に取り組み、スタッフ一人ひとりが成長できる組織を目指しています。

そのために、学習する組織のあり方と、学校運営の方法の確立に取り組んでいます。

スタート研修	学園グループ、学校の 5 ヵ年の計画を理解したうえで、単年度の事業計画を落とし込み、各部署、個人の単位まで目的、目標、行動計画を作成します。
教務研修	担任のクラス運営、学生支援力を高めるための研修を行なっています。
広報(入学前教育)研修	広報は入学前教育という考えのもとに、学生募集や受験生のサポートなど、一人ひとりの適性に合わせた進路支援ができるよう研修を行っています。
学科の教員に対する研修	ウェディング・ホテル業界の最新の専門知識を取り入れ、あるいは教授力の向上を図る為、学内での研修を企画し、また学外の研修に参加しやすい環境を整えています。

本年度の重点課題と自己評価

2022年度重点課題	達成状況	今後の課題
○2022年度 運営方針 自ら考え、行動でき、ウェディング・ホテル業界で長く活躍するプロを養成する専門学校となる 【2つの基本姿勢】 自律 協働 【5つの基本行動】 1. 時間・期限を守ろう 2. 清潔感を保とう 3. 自分から挨拶をしよう 4. おもいやりの心を持とう 5. 丁寧な言葉づかいをしよう の徹底 【重点項目】 ◆ 産学連携の教育を確立する ◆ 3年制教育への完全移行 ◆ イノベーション&クリエイティブ	1. 教育実績 中途退学者 目標 9名(3.8%) 実績 10名(4.3%) 進級者 目標 105名(93.6%) 実績 103名(91.9%) 2. 就職実績 卒業生 84名 就職希望者 73名(86.9%) 内定 73名(100%) 第一専門職 73名(100%) 3. 学生募集実績 入学定員 120名(WP:40 WD:80) 入学目標 110名(WP:40 WD:70) 実績 111名(WP:46 WD:65) 4. 収支実績 収支差益率目標 18.0% 実績 18.2%	【重点項目の評価と今後の課題】 ◆産学連携の教育を確立する → △ ウェディングプランナー科 ➡ 業務委託型の実習、プランナーアシスタント実習もスタートし、学科の養成目的・教育目標に基づいた産学連携教育が質・量ともに嵩んできている。 ウェディング科 ➡ これまでは現場実習と学内企業説明会が業界との接点の大きなところであった。教育課程において、連携をとる教育は、まだまだ出来ておらず課題がある ◆3年制教育への完全移行 → △ 教育内容については職員の勉強会も実施し、ウェディング科の3年制移行が何とか出来た実績募集では3年制に移行した「ウェディング科」が初年度募集で入学65名の見込み。目標は70名のため達成していない。(昨年入学77名※2年制)3年制であることで出来る教育の質向上と高校生をはじめとした顧客ニーズとのマッチングを今後も考え商品づくりをしていく必要がある。 ◆イノベーション&クリエイティブ → △ 年度当初に教務部長が不在となり、新しく何かを打って出るようなアクションが取りづらくなってしまった。組織的問題が大きかったが、その中でもよりICTを活用する発想も出てきていることは学内にある機会とも捉えられる。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校法人滋慶学園は「職業人教育を通して社会に貢献していく」ことをミッション(使命)にしています。 建学の理念 ①実学教育 ②人間教育 ③国際教育を実践し、 4つの信頼 ①学生・保護者からの信頼 ②高等学校からの信頼 ③業界からの信頼 ④地域からの信頼 を得られるよう学校運営をしています。 上記、建学の理念に基づき、東京ウェディング・ホテル専門学校は、少子化社会、結婚式に対する意識変化に伴うナシ婚層の拡大といったウェディング業界が抱える課題解決に対応でき、かつ業界で長く活躍することが出来る人材の養成を行う事を目的として3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)を定め、学校運営を行っています。		1、実学教育 スペシャリストが求められる時代に即し、即戦力となる知識・技術を教授しています。プロ意識を持った『即戦力として仕事ができる人材』を、各業界との連携のもと「各々の業界に直結した専門学校として」養成しています。 2、人間教育 日頃の学校生活のなかで、いかに人間力を高める教育ができるかが重要になっています。学内には、『今日も笑顔で挨拶を』の標語が掲示されています。「笑顔であいさつ」を習慣にする指導にとりくんでいます。授業や研修等の様々なカリキュラムを通じて基本的なマナーはもちろんのこと、各々の職種で必要とされる、プロとしての身構え、気構え、心構えを持った職業人育成に力を入れています。 3、国際教育 自国を知り、異国を知る。それぞれの比較を行う事から視野の広がりを促し、価値観や文化の違いを尊重できるよう導きます。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

1-1 理念・目的・育成人材像

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	☐ 理念に沿った目的・育成人材像になっているか ☐ 理念等は文書化するなど明確に定めているか ☐ 理念等において専門分野の特性は明確になっているか ☐ 理念等に応じた課程(学科)を設置しているか ☐ 理念等を実現するための具体的な目標・計画・方法を定めているか ☐ 理念等を学生・保護者・関連業界等に周知しているか ☐ 理念等の浸透度を確認しているか ☐ 理念等を社会の要請に的確に対応させるため、適宜見直しを行っているか	5	教育理念・目的・育成人材像は、明文化・文章化されており、会議や研修等においては、これらを用いながら行うことで理念等の普及・徹底を実現している。 また、学校 HP の情報公開ページにも記載されており、広く保護者、関連業界等にも示している。	特になし		
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	☐ 課程(学科)毎に、関連業界等が求める知識・技術・技能・人間性等人材要件を明確にしているか ☐ 教育課程・授業計画(シラバス)等の策定において、関連業界等からの協力を得ているか	5	業界訪問で得た情報を活用、教育課程編成委員会の業界代表者の意見を得ながら、業界が求める人物像を明確にするとともに、教育課程・授業計画等策定している。	特になし		

1-1 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
1-1-2 続き	☐ 専任・兼任(非常勤)にかかわらず、教員採用において、関連業界等から協力を得ているか ☐ 学内外にかかわらず、実習の実施にあたって、関連業界等からの協力を得ているか ☐ 教材等の開発において、関連業界等からの協力を得ているか		専任・兼任ともに関連業界で活躍するスタッフを採用できている。 学外の現場実習においては、業界連携を図りながら、全ての学生が滞りなく実施することが出来ている。 教材選定も業界の最新状況を踏まえてリストアップしている。	特になし		
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	☐ 理念等の達成に向け、特色ある教育活動に取り組んでいるか ☐ 特色ある職業実践教育に取り組んでいるか	5	事業計画において「自ら考え行動できる」「業界で長く活躍する」人材の養成を掲げ、3年制教育による教育の質向上に取り組んでいる。	特になし		
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	☐ 中期的(3～5 年程度)な視点で、学校の将来構想を定めているか ☐ 学校の将来構想を教職員に周知しているか ☐ 学校の将来構想を学生・保護者・関連業界等に周知しているか	5	全学科 3 年制への移行を図り、本校教育の特色として企業との連携を軸とした「現場教育プログラム」の効果をさらに高めるべく、中・長期の事業計画を策定している。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学校の将来を組織運営面と教育＝人材育成面の両視点から捉えている。常に5年先を見据えて事業計画を立て遂行しており、将来構想を明文化し運営している。	常に業界と連携(情報交換)を図り、業界ニーズから乖離せず産学協同での教育を心がけている。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準2 学校運営

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
社会環境の変化に対応できるよう事業計画については、長期(5年)、中期(3年)、短期(1年)を展望し、次年度事業計画を作成しており、毎年作成する事業計画が学校運営の核となるものである。 事業計画は、学校運営会議、法人常務理事会、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、毎年3月の初旬、学校の事業計画の研修を行い、全教職員へ周知徹底を図る。 事業計画において、組織図、職務分掌、各種会議の意思決定システム(コミュニケーション一覧)が明確に示されている。 運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われている。事業計画書の組織図には、学校に関わるすべての人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。 学校運営に際し、毎週定例の会議以外にもツールボックスミーティング等、即時、適宜にミーティングを行い、常にコミュニケーションを図ることを重視している。 中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、教務・広報・教職員のFD研修において目標達成に向け常にマインド面とスキル面の向上を図っている。		事業計画の構成 ①組織目的 (普遍的に学校が目指す開校、組織運営の目的) ②運営方針 (中期的に組織として目指していく方針) ③実行方針 (中期的な組織の運営方針を実現するための単年度の方針) ④定量目標 (受験者数、教育成果(中途退学者数、欠席率、資格取得数、就職率、専門就職率等)) ⑤定性目標 (人材育成や組織のあり方等定性的な目標についての単年度目標) ⑥実行計画 (その方針を実現するための詳細な計画) ⑦組織図 (単年度) ⑧職務分掌 ⑨部署ごとの計画及びスケジュール ⑩職員の業績評価システム ⑪意思決定システム ⑫収支予算書 (5ヵ年計画)

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

2-2 (1/1)
2-2 運営方針

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	☐ 運営方針を文書化するなど明確に定めているか ☐ 運営方針は理念等、目標、事業計画を踏まえ定めているか ☐ 運営方針を教職員等に周知しているか ☐ 運営方針の組織内の浸透度を確認しているか	5	学校事業計画は、学校運営会議、法人理事会、法人評議員会の決議を受け、承認を得ている。 また、学校の事業計画は毎年3月の初旬に全教職で研修を行い、周知徹底している。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていくと考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努める。	学校運営の核をマネジメントシステムの準備(計画)と実行として捉えている。それらを確実に遂行していくために、マネジメントスキルならびにリーダーとしての運営能力の向上研修を重視している。この考えは、マネージャーは組織運営者であることを前提としているからである。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

2-3 (1/1)
2-3 事業計画

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	☐ 中期計画(3～5 年程度)を定めているか ☐ 単年度の事業計画を定めているか ☐ 事業計画に予算、事業目標等を明示しているか ☐ 事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか ☐ 事業計画の執行・進捗管理状況及び見直しの時期、内容を明確にしているか	5	学校の組織目的と中期的学校構想のもと、事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。 また、事業計画を教職員が自主的に計画・決定し全員で共有している。 その上で、職場運営が実行されている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を作成している。事業計画を立てることと、運営方針を定めることは、常に同時に考え、実践している。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間を通じて注力している。	事業計画を教職員が自主的に計画し、決定し全員で共有する。その上で職場運営が実行に移されている。 その運営のチェック機能として、 ①学園の理事会議、②グループでの戦略会議(月次:運営責任者会議)、③運営会議(隔週:全学校常勤職員)と部署会議(隔週:部署・チーム)があり、都度計画遂行の確認を行っている。合わせて問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを確立している。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

2-4 (1/2)

2-4 運営組織

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	☐ 理事会、評議員会は寄附行為に基づき適切に開催しているか ☐ 理事会等は必要な審議を行い、適切に議事録を作成しているか ☐ 寄附行為は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	理事会、および評議委員会は寄付行為に基づき、年 3 回実施している(5 月決算承認、10 月中間報告・修正予算、3 月最終修正・次年度予算等)。それぞれ、議題に基づき審議され、議事録の作成・保管をしている。	特になし		
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	☐ 学校運営に必要な事務及び教学組織を整備しているか ☐ 現状の組織を体系化した組織規程、組織図等を整備しているか ☐ 各部署の役割分担、組織目標等を規程等で明確にしているか ☐ 会議、委員会等の決定権限、委員構成等を規程等で明確にしているか ☐ 会議、委員会等の議事録(記録)は、開催毎に作成しているか ☐ 組織運営のための規則・規程等を整備しているか ☐ 規則・規程等は、必要に応じて適正な手続きを経て改正しているか	5	運営組織は、実行計画の最適化の観点から毎年見直されている。その全体像は、事業計画書の組織図・職務分掌・会議研修一覧に示されている。運営のチェックは、各会議で行い、計画遂行の確認をする。問題点を早期に発見し、対策を立て、実行するプロセスを構築している。	特になし		

2-4 (2/2)

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-4-2 続き	□学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取組みを行っているか		学園本部主催の事務職員対象研修に参加をしている			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
意思決定に関しては、重要事項の優先順位と対応する機関が明確である。毎年事業計画策定を細部に渡り行うことで、目標達成志向性の高い組織運営が行われている。	① 会議の進行・ルールについての研修を実施している。 ② 議題発信と議事録配付・保管のルールを重視している。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

2-5 (1/1)

2-5 人事・給与制度

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	☐ 採用基準・採用手続きについて規程等で明確化し、適切に運用しているか ☐ 適切な採用広報を行い、必要な人材を確保しているか ☐ 給与支給等に関する基準・規程を整備し、適切に運用しているか ☐ 昇任・昇給の基準を規程等で明確化し、適切に運用しているか ☐ 人事考課制度を規程等で明確化し、適切に運用しているか	5	採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準のもと、厳正に実施している。 目標管理制度を基本とし、これと対応して成果主義を取り入れた賃金制度を設けている。賃金の決定は目標管理制度を基準としている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
採用計画と人材育成のための研修は、システムとして確立され、有効に機能している。 採用にあたっては、学園本部が中心となり、採用広報や、採用試験を実施している。採用は採用基準の基、厳正に実施している。また、その後の教職員の育成には、最も力を入れている。加えて目標管理制度に基づき、成果に応じた人事や賃金決定を行っている。	数字目標を達成する過程の業務や、数字だけでは評価できない業務も評価できるようプロセス評価や情意考課評価を導入している。目標は常に、健全な学校運営・学科運営を実現できるかの視点で立て、評価も公平に行い、学校・学科の成長と教職員の成長に結びつくようにしている。また、職員の職場に関するアンケートも実施。各自の希望などの項目でアンケートを取り、その結果を受けての、職場環境の改善にも着手している。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

2-6 (1/1)

2-6 意思決定システム

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	☐ 教務・財務等の事務処理において、意思決定システムを整備しているか ☐ 意思決定システムにおいて、意思決定の権限等を明確にしているか ☐ 意思決定システムは、規則・規程等で明確にしているか	5	意思決定システムは事業計画において明文化しており、諸会議の位置づけについても明記されている。また意思決定を行う会議の進め方、結果の取り扱いも重視されている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法人としては、事業計画・運営方針を定めることを最も重要視している。その意識で毎年、法人として事業計画・運営方針を定めている。 明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして共感してもらうことに、年間を通じて注力している。それは、各種の研修(教職員・講師)、会議等で行い、全教員が納得して学校運営に携わる環境作りをしている。このことが、学校・学科の教育成果に繋がっていくと考えている。常に市場ニーズに対応した事業計画・運営方針を作成するように努めていく。	会議は下記の様に運営している。 1. 法人理事会・評議員会: 学園運営における最高議決機関 2. EAST 戦略会議: 運営方針の起案会議 3. 分野毎戦略会議: 上位会議情報の伝達、現況の確認と課題発見、対策、立案、進捗報告 4. 全体運営会議: 学内全スタッフとの共有・議論・具体的なアクションプランの決定 部署別会議: 部署ごとの問題解決への議論、またはより細かい進捗や企画の共有 5. 各種プロジェクト会議: プロジェクトの目的・目標達成に必要な機会・問題発見解決会議

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

2-7 (1/1)

2-7 情報システム

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策	参照資料
2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	☐ 学生に関する情報管理システム、業務処理に関するシステムを構築しているか ☐ これらシステムを活用し、タイムリーな情報提供、意思決定が行われているか ☐ 学生指導において、適切に（学生情報管理）システムを活用しているか ☐ データの更新等を適切に行い、最新の情報を蓄積しているか ☐ システムのメンテナンス及びセキュリティ管理を適切に行っているか	5	専門学校基幹業務システムにより管理。入学前から卒業後までの情報を上記システムにより一元管理を行っている。 また、担任面談で仕入れた情報に関しては、オンラインの出欠管理システムに記載されており、教職員個人に ID・パスワードを付与しログイン管理されている。 2021 年度よりマイクロソフト社のラーニングマネジメントシステム、TEAMS を活用し学生への資料共有や課題配付・収集を行っている。 システムメンテナンスではグループ関連企業が常時バックアップ体制を整えている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
業務のマニュアル化とシステム化の推進と、法人内のコンピュータ関連会社の協力で、情報の一元化に成果が現れてきている。結果、業務の効率化により、教職員が直接学生と接する時間が取れている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準3 教育活動

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教育活動においては、本校学園グループの建学の理念から、→開校の目的→養成目的・教育目標→学年・学期目標→科目到達目標→コマ授業到達目標までが、一貫している重要性を認識して、授業、学校運用を行っている。 ウェディング分野の特徴である早期就職活動のスケジュールと、教育スケジュールとの両立を図るべく、全学科3年制教育へと移行を図っている。 新たに3年制へ移行するウェディング科では、科目選択制の学び方を導入し、幅広い職種をカバーするウェディング分野の特色を踏まえ、自コース+αの学びを自由に組めるようカリキュラムを変更する。 教育課程の編成の際には、教務キャリアセンター部がカリキュラム会議を開催し、学科の課題、業界、競合他校の調査・分析を実施してから、編成作業を実施する。 具体的な取り組み事例として、ウェディングプランナー科では業界初のプランナーアシスタント実習をスタート。従来の結婚式運営に関するアルバイト実習ではなく、業務委託契約の元、平日も含めてインターンシップを行いプランナーの仕事の全体像を学ぶ形式が特色となっている。 教育DXとして、ICTツールの導入を推進。学生1人に1台のPCデバイス持参をお願いし、マイクロソフトのTEAMSを活用している。授業資料の閲覧、課題の配付・回収と、オンライン授業を実施。自ら情報を得ようとする主体的な姿勢を育む仕掛けとしている。	キャリア教育の年間フローの中で、個々人のキャリアをしっかり形成すべく、担任の授業『キャリア教育講座』を通して学生の自律・協働のマインドを育む。 ウェディング業界の就職活動のペースに対応するため、2023年度からは全学科3年制学科へ移行。既存ウェディング科のカリキュラムも大幅に学び方のイノベーションを図っている。その教育システムを実運用ベースにのせ、業界へあらたな可能性を持った人材として評価していただけるよう卒業生を輩出することが今後の課題である。 2022年度から一人1台のPC・タブレットを持参必須として、学生のICT教育を進めている。	ウェディング分野の専門学校の特色として、高校生までの間で具体的な職業像を把握することが難しいというものがある。これはそもそも結婚式が身近ではないため、マスコミやメディアで取り上げられる表面的な職業イメージ(例:WPはお客さんと打合せ、本番施行の司令塔など)が先行してしまうことによるものである。 実際に本校のオープンキャンパス参加者に、高校生までの参列経験をアンケート調査したところ、「参列経験なし」が38%、「小学生までで参列した」が40%となり、中学生以上で参列した者は22%にとどまっている。(※高校3年生346名に調査) もう一方で、ウェディング分野には業務独占資格が存在しないため、専門学校における目的・目標設定が非常に重要な役割を果たす。 そのため ①全体的なウェディングのビジネスモデルを教える ②それぞれの職種の具体的な業務内容を教える ③職種と職種間のリレーションがどう取られているかを教える ④仕事の意義、やりがいについて伝え続け考えさせるが要諦であると考えている。 また、就職活動は大学生と同じ採用スケジュールに乗っかる必要があり、卒業年次の前の年の11月頃から就活が本格化していく。2年制ではその準備教育が性急に行われるため、動機づけ教育や、就職内定後の燃え尽き症候群が問題点となっていた。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

3-8 (1/1)

3-8 目標の設定

小項目	チェック項目	評定	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	☐ 教育課程の編成方針、実施方針を文書化するなど明確に定めているか ☐ 職業教育に関する方針を定めているか	5	毎年、事業計画において教育課程方針をさだめている。また職業教育方針については、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを定めている。	特になし		学生便覧/教育指導要領 シラバス
3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	☐ 学科毎に目標とする教育到達レベルを明示しているか ☐ 教育到達レベルは、理念等に適合しているか ☐ 資格・免許の取得を目指す学科において、取得の意義及び取得指導・支援体制を明確にしているか ☐ 資格・免許取得を教育到達レベルとしている学科では、取得指導・支援体制を整備しているか	5	教育指導要領、学生便覧において、学科ごとの到達レベルである「養成目的、教育目標、学年、学期目標」を学生に明示している。 また資格取得指導、支援体制も学年暦や時間割において明示し、教育活動を実践している。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教育指導要領、学生便覧において、教育編成の方針、教育到達レベルについては明示されており、2019年より HP の情報公開ページには全科目のシラバスを公開している。資格取得に対する指導、支援体制、対策スケジュールも学年暦の中に設定され、資格合格率も高まってきた。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

3-9 (1/3)

3-9 教育方法・評価等

小項目	チェック項目	評価	現状の取組状況	課 題	今後の改善方策	参照資料
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	☐ 教育課程を編成する体制は、規程等で明確にしているか ☐ 議事録を作成するなど教育課程の編成過程を明確にしているか ☐ 授業科目の開設において、専門科目、一般科目を適切に配分しているか ☐ 授業科目の開設において、必修科目、選択科目を適切に配分しているか ☐ 修了に係る授業時数、単位数を明示しているか ☐ 授業科目の目標に照らし、適切な教育内容を提供しているか ☐ 授業科目の目標に照らし、講義・演習・実習等、適切な授業形態を選択しているか ☐ 授業科目の目標に照らし、授業内容・授業方法を工夫するなど学習指導は充実しているか ☐ 職業実践教育の視点で、授業科目内容に応じ、講義・演習・実習等を適切に配分しているか	5	教育課程の編成については、学科の課題、業界の現状、入学生の状況を鑑みながら、例年6月ごろから教務キャリアセンター部にてカリキュラム編成会議を実施し、養成目的、教育目標、到達目標および授業課程を毎年見直している。 修了に係る授業時数、単位数、各講義の教育目標については学生便覧という冊子に整備され、入学後配付しオリエンテーションや担任授業の中で解説、周知を行っている。	特になし		学生便覧

3-9 (2/3)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-1 続き	☐ 職業実践教育の視点で教育内容・教育方法・教材等工夫しているか ☐ 単位制の学科において、履修科目の登録について適切な指導を行っているか ☐ 授業科目について、授業計画(シラバス・コマシラバス)を作成しているかを ☐ 教育課程は定期的に見直し改定を行っているか		また、シラバス、コマシラバスは学校ルールとして、配信が義務となっており、マイクロソフトの TEAMS 上にアップし学生は閲覧したうえで授業に臨んでいる。 授業方略については、講師研修、教務キャリアセンター部会議を通じて各職員が研鑽している。また毎年 3 月に講師会議を実施している。	特になし		
3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか	☐ 教育課程の編成及び改定において、在校生・卒業生の意見聴取や評価を行っているか ☐ 教育課程の編成及び改定において、関連する業界・機関等の意見聴取や評価を行っているか ☐ 職業実践教育の効果について、卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	5	業界の方や講師の方へヒアリングを実施し、分析シートを作成した上で、カリキュラム編成作業を行っている。また、毎年2度の教育課程編成委員会を実施、得た意見を次年度の教育課程に反映している。 卒業生からの意見についても年1回、同窓会を実施し卒業生の学校への意見を聴取している。	特になし		

3-10 (3/3)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	☐ キャリア教育の実施にあたって、意義・指導方法等に関する方針を定めているか ☐ キャリア教育を行うための教育内容・教育方法・教材等について工夫しているか ☐ キャリア教育の効果について卒業生・就職先等の意見聴取や評価を行っているか	4	職員は学園内で実施しているキャリア教育に関する研修を受講している。 学内においてもキャリア教育のロードマップを作成し、担任によるキャリア教育講座授業を設置している。	勤労観・就業意識の育成、個々人の具体的なキャリアプラン構築への働きかけと、自立（自律）支援のあり方が課題。 例年、就職希望をせずアルバイトとしての就労を選択する学生がおり、社員採用で社会に送り出せるよう引き続き取り組んでいく。	入学前の授業から就業意識を身に付ける内容を実施。担任の授業『キャリア教育講座』を通して学生の自律・協働のマインドを育むため、指導と支援をバランス見ながら実施している。また『実習就職対策講座』で、単に就職内定に向けたスキル習得のみならず、就労意欲を喚起すべく「マインド面」指導を強化している。	キャリア教育ロードマップ キャリアプランシート
3-9-4 授業評価を実施しているか	☐ 授業評価を実施する体制を整備しているか ☐ 学生に対するアンケート等の実施など、授業評価を行っているか ☐ 授業評価の実施において、関連業界等との協力体制はあるか ☐ 教員にフィードバックする等、授業評価結果を授業改善に活用しているか	4	授業評価については、教務部長や学科長が授業を見学し講師とコミュニケーションを取りながら改善に向け協働を行っている。 上記とは別に、年に1度非常勤講師と教務責任者との面談を実施し、授業改善の検討を行っている。	授業の質的向上は恒久的な課題である。 特に新任講師や、業界現役プレイヤーの講師にとっては学生観やレベル感を掴むことが困難であり、学習者に適切な授業展開をすることが難しい。	教務責任者や学科長が授業を見学し、授業へのフィードバックを実施する。 単元修了時には学生に対して授業アンケートを実施し、習熟度や授業の分かりやすさなどを確認し、担当講師へフィードバックを行っていく。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
就業意識を植え付け、現場実習→就職活動へスムーズに移行できる教育システムとしての「キャリア教育ロードマップ」を構築している。就職希望をせずアルバイトとしての就労を選択する学生がおり、社員採用で社会に送り出せるよう引き続き取り組んでいく。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

3-10 (1/1)

3-10 成績評価・単位認定等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	☐ 成績評価の基準について、学則等に規定するなど明確にし、かつ、学生等に明示しているか ☐ 成績評価の基準を適切に運用するため、会議等を開くなど客観性・統一性の確保に取り組んでいるか ☐ 入学前の履修、他の教育機関の履修の認定について、学則等に規定し、適切に運用しているか	5	単位履修、成績評価については、学生便覧内の学則施行細則にて、全学生に配付、説明を実施している。 また運営会議、進級判定会議などにおいて、成績評価、単位履修についての共通認識を確認している。	特になし		
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	☐ 在校生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	5	ウェディング科は1年次にフォトコンテストを実施。日本ウェディングスタイリスト協会の外部コンテストにエントリーしており入賞者も出ている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
毎年、学生便覧掲載内容、学則施行細則の見直しを行っており、単位認定、成績評価については入学前、入学直後のオリエンテーションや初年次教育において、詳細な説明を実施している。また成績評価、単位認定の基準に未到達が予測される学生への、カウンセリングも早期に実施し、全ての学生が卒業できる体制作りを実施している。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

3-11 (1/1)

3-11 資格・免許取得の指導体制

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	☐ 取得目標としている資格・免許の内容・取得の意義について明確にしているか ☐ 資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について明確にしているか	5	取得目標資格それぞれの意義に向けての内容や資格対策授業については入学時に学生便覧にて詳細を説明して、資格取得の動機付け教育を行っている。	特になし		
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	☐ 資格・免許の取得について、指導体制を整備しているか ☐ 不合格者及び卒後の指導体制を整備しているか	5	担当講師と資格試験対策について打ち合わせを行い、通常授業外の時間を設け、直前対策授業を組んでいる。 国家検定については不合格者を対象に卒業後の対策講座を実施している。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
ウェディング・ホテル分野の国家検定、ブライダルコーディネイト技能検定とレストランサービス技能検定は特に力を入れて対策を取っている。BR コーディネイト技能検定では、全国平均71%のところ2022年度は92%の合格実績を挙げており、精度の高い検定合格対策が構築できている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

3-12 (1/2)

3-12 教員・教員組織

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	☐ 授業科目を担当するため、教員に求める能力・資質等を明確にしているか ☐ 授業科目を担当するため、教員に求める必要な資格等を明示し、確認しているか ☐ 教員の知識・技術・技能レベルは、関連業界等のレベルに適合しているか ☐ 教員採用等人材確保において、関連業界等と連携しているか ☐ 教員の採用計画・配置計画を定めているか ☐ 専任・兼任（非常勤）、年齢構成、男女比など教員構成を明示しているか ☐ 教員の募集、採用手続、昇格措置等について規程等で明確に定めているか ☐ 教員一人当たりの授業時数、学生数等を把握しているか	5	科目の到達目標に合致する実務経験または教授歴を持つ者が担当講師となるよう、履歴書、職務経歴書、資格証、卒業証明書などの必要書類の提出と面接をし、採用している。事業計画において教員採用計画を立案しており、それに基づき実施している。 また、教授力を高めるための、研修や勉強会を毎年実施している。 高等教育無償化の支援措置対象校として、科目表、シラバス、また実務経験を持つ教員の情報についても情報公開ページにて公開をしている。	特になし		

3-12 (2/2)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	☐ 教員の専門性、教授力を把握・評価しているか ☐ 教員の資質向上のための研修計画を定め、適切に運用しているか ☐ 関連業界等との連携による教員の研修・研究に取組んでいるか ☐ 教員の研究活動・自己啓発への支援など教員のキャリア開発を支援しているか	5	FacultyDevelopment 研修、カウンセリング研修など教員の資質向上を目的とした研修を実施。 また、ブライダル業界のトレンドを取り入れるため、業界講師を招き教職員向けの研修を毎年実施している。	特になし		
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	☐ 分野毎に必要な教員体制を整備しているか ☐ 教員組織における業務分担・責任体制は、規程等で明確に定めているか ☐ 学科毎に授業科目担当教員間で連携・協力体制を構築しているか ☐ 授業内容・教育方法の改善に関する組織的な取組があるか ☐ 専任・兼任(非常勤)教員間の連携・協力体制を構築しているか	5	年2回の講師契約説明会および講師会議を実施し、学校の運営方針、昨年度の振り返り、今年度の重点項目を共有し、授業運営準備に臨んでいる。2019年度からは GPA 評価の導入、2021年度から一部の科目でルーブリック評価法を導入した。 常勤職員は職務分掌を明確にしたうえで、運用にあたっている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
教員に関する研修については充実した体制をとっている。また非常勤教員との情報共有や教授力の向上については、様々な取組みを行っている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準4 学修成果

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
<u>1)退学者数</u> 中途退学者 目標9名(3.8%) 実績10名(4.3%) 中途退学者は目標数よりも1名、進級者数も目標よりも2名超えてしまった。特にウェディングプランナー科の導入教育に課題を残しており、次年度は対策を立てて臨む。 <u>2)資格取得実績</u> ブライダルコーディネーター技能検定 3 級(国家検定) 合格実績 92%(76名/83名) 最重要である国家検定の合格率は全国平均71%のなか、本校では92%という高い実績を挙げた。また、ホテルビジネス検定やカラーコーディネーター検定といった資格でも高い合格率が挙げられている。担当講師の固定により教授法が確立されてきたことによるものである。 <u>3)就職</u> 卒業生 84名 就職希望者 73名(86.9%) 内定 73名(100%) 就職はコロナの影響から脱し、求人数が回復した年度である。2022 年度学生(2023 年 4 月採用)は、コロナ回復を見越し、学校に寄せられた求人情数・求人人数は(79 件 1491 人→80 件 2080 人)コロナ前の水準に戻っている。課題点は、「就職者率」目標 93%のところ、結果＝89%で未達。正規雇用の卒後進路に導けない学生が出ている。社会人となる意識づけ、ライフプラン等卒業後の生活を見据えた教育を充実させる必要がある。 <u>4)卒業生の社会的評価</u> 毎年実施している卒業生の1年以内離職調査では、毎年10～12%の離職率であり、まだまだ高い数字である。	2022年度は過去 2 年間採用を縮小してきたことの反動により、求人情数は回復傾向にあるが、最盛期の60～70%程度である。 課題点は、「就職者率」 目標 93%のところ、結果＝89%で未達。留学生の在籍が無くなった年度となるが、正規雇用の卒後進路に導けない学生が出ている点である。社会人となる意識づけ、ライフプラン等卒業後の生活を見据えた教育を充実させる必要がある。 卒業生ネットワークを構築する仕組みづくりの一端として、2018 年度より卒業生委員を巻き込んだ同窓会組織運営を行っている。また、卒業生全員の状況を把握するため、卒業生の LINE でのつながり構築を実施した。次年度以降も継続してつながりを構築していく。 離職対策では、在学期間中からの学生の帰属意識を醸成することで、卒業後も学校に離職相談に来てもらえるような流れを作っていきたい。	

最終更新日	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
-------	-----------	-------	------

4-13 (1/1)

4-13 就職率

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
4-13-1 就職率の向上が図られているか	☐ 就職率に関する目標設定はあるか ☐ 学生の就職活動を把握しているか ☐ 専門分野と関連する業界等への就職状況を把握しているか ☐ 関連する企業等と共催で「就職セミナー」を行うなど、就職に関し関連業界等と連携しているか ☐ 就職率等のデータについて適切に管理しているか	5	以下の7つの項目で毎月末数字を確認。 ①卒業年次在籍者数 ②就職希望者数 ③求人件数(職種別・有効求人数) ④内定者数(学科ごと、月ごとと累計) ⑤専門就職者数 ⑥月別内定シミュレーション ⑦学生就職活動状況表 また毎年1年次11月に、関連企業と連携し『就職決起会』を実施。スタート時期の早いウェディング・ホテル業界の就職活動に対応すべく企業連携を図っている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
4月の内定率、前年度は10.1%からのスタートであったが、今年度は21.9%であった。8月末には内定率 80.8%の実績を挙げられたが、課題点は、「就職者率」である。正規雇用の卒後進路に導けない学生が出ており、社会人となる意識づけ、ライフプラン等卒業後の生活を見据えた教育を充実させる必要がある。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

4-14 (1/1)

4-14 資格・免許の取得率

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-14-1 資格・免許の取得率の向上が図られているか	☐ 資格・免許取得率に関する目標設定はあるか ☐ 特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取組はあるか ☐ 合格実績、合格率、全国水準との比較など行っているか ☐ 指導方法と合格実績との関連性を確認し、指導方法の改善を行っているか	4	事業計画において、単年度及び 5 年後までの取得率目標を設定している。 プランナーを目指す学生の目標となっている「ブライダルコーディネイト技能検定 3 級（国家検定）」については、全国平均 71%のところを、92%の合格実績を出すことが出来ている。 日本ホテル教育センター主催「ホテルビジネス実務検定」では3年連続の優秀指導校賞を頂くことが出来ている。	不合格者の対応について	不合格者については次年度の受験学年の試験対策の授業に参加することが出来、再受験をすることが可能になっている。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
全学生が必要な資格を取得することを目標としており、担当講師と複数年計画で対策を行うことで、高い合格実績を挙げられた。国家検定については、世に対策テキストが出回っていないため、独自の問題集の作成、オリジナル映像問題の作成など対策を重ねており、成果につながっている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

4-15 (1/1)

4-15 卒業生の社会的評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	☐ 卒業生の就職先の企業・施設・機関等を訪問するなどして卒後の実態を調査等で把握しているか ☐ 卒業生のコンテスト参加における受賞状況、研究業績等を把握しているか	3	毎年5月に卒後1年間の離職率調査を就職先企業、卒業生と連携を取り行っている。6期生の1年以内の離職率は10.1%であった。毎年 10%～12%の推移をしている。 離職せず、定着している卒業生の業界評価は高く、縦につながる伝統を形成してくれている。	毎年 10～12%の推移をしており、低くはない状態である。	卒業生ネットワークを構築する仕組みづくりの一端として、2018 年度より卒業生委員を巻き込んだ同窓会組織運営を行っている。また、卒業生全員の状況を把握するため、卒業生の LINEWORKS でのつながり構築を実施した。さらに在学期間中からの学生の帰属意識醸成にも取り組んでいく。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
離職率 0%にする為に、在学中の就労意識および卒後のキャリア開発と離職検討の際のカウンセリングが重要となってくる。同時に同窓会組織と SNS を活用し、卒業生とのつながりを継続していく。	離職防止に繋がるよう、実習から内定を頂ける企業の開拓を行っている。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準5 学生支援

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生支援は、①就職②学費③学生生活④健康等の面において行っている。支援を行うにあたり、それぞれに対応できる担当部署や専門担当者を置いている。 就職(キャリアセンター) 在校生から卒業生まで幅広くキャリアアップ支援(就職支援、生涯学習支援)をしていく。キャリアセンターは「入学した学生の専門職就職を実現する」ことを目標としている。 学費(学生サービスセンター) 学費納入を支援する分納制度を入学前から紹介し、学費困難からの入学辞退や退学者が出ないように支援を行っている。学内には学園の専門教育を受けたアドバイザーが常駐しており、様々な学費相談に対してのフォローを行っている。 学生生活(担任、学生寮本部) クラス担任制度をとっており、学生生活の相談窓口となっている。担任が中心となって関連する部署と連携を取り総合的に学生支援を行っている。また、寮の学生に対しては、学生寮本部の生活アドバイザーが24時間体制で生活指導を行っている。 健康(慶生会クリニック、滋慶トータルサポートセンター) 学園グループが運営する慶生会クリニックにて健康相談や歯科、内科の受診を行っている。また、メンタル面に不安を抱える学生は学園の学生相談室である滋慶トータルサポートセンターにてカウンセリングを受ける事ができる。		在学中に目指す職業への目的意識の喪失から中途退学に至る学生への支援として、進路アドバイザーがキャリア相談を行っている。 その結果、新たに目指すべき職業が明確になった学生に対しては、スムーズに新たな学びが始められるよう姉妹校に転校できる制度が整備されている。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

5-16 (1/1)

5-16 就職等進路

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	☐ 就職など進路支援のための組織体制を整備しているか ☐ 担任教員と就職部門の連携など学内における連携体制を整備しているか ☐ 学生の就職活動の状況を学内で共有しているか ☐ 関連する業界等と就職に関する連携体制を構築しているか ☐ 就職説明会等を開催しているか ☐ 履歴書の書き方、面接の受け方など具体的な就職指導に関するセミナー・講座を開講しているか ☐ 就職に関する個別の相談に適切に応じているか	4	学生のサポート体制としては、クラス担任・教務部長・キャリアセンター長が連携取り支援にあたっている。就職活動期には、担任授業の中で活動状況表を提出させ、学内データとして共有している。 業界との連携を密にとるべく、積極的に学内外での企業説明会・現場見学会を実施。希望者には早期の有給インターンシップを案内し、就職に有利になるよう働きかけを行っている。 また就職対策授業では履歴書・面接練習を個々の進捗に合わせ実施している。	課題点は、「就職者率」である。 正規雇用の卒後進路に導けない学生が出ており、社会人となる意識づけ、ライフプラン等卒業後の生活を見据えた教育を充実させる必要がある。	就職サポートについては、求人開拓とサポート強化の両面から対策を行う。 引き続き、学生へ正規雇用の必要性についての、早期の動機づけと啓蒙を行っていく。 3年制になる事で、自身の将来について考える時間をカリキュラムの中でもしっかり設けられるようになり、就職内定がゴールではない動機づけに繋げていきたいと考えている。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
年度当初卒業年次在籍者83名、卒業者数81名、就職者73名(就職者率89%) 4月の内定率、前年度は10.1%からのスタートであったが、今年度は21.9%であった。8月末には内定率 80.8%の実績を挙げられた。 課題点は、前述のとおり「就職者率」である。正規雇用の卒後進路に導けない学生が出ており、社会人となる意識づけ、ライフプラン等卒業後の生活を見据えた教育を充実させる必要がある。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

5-17 (1/1)

5-17 中途退学への対応

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-17-1 退学率の低減が図られているか	☐ 中途退学の要因、傾向、各学年における退学者数等を把握しているか ☐ 指導経過記録を適切に保存しているか ☐ 中途退学の低減に向けた学内における連携体制はあるか ☐ 退学に結びつきやすい、心理面、学習面での特別指導体制はあるか	4	中途退学者は年間で●人以内といった目標を立てて全職員が追っている。また月次で経過を集計し、動向を掴んでいる。 これまでの課題であった実習での負の経験から退学に至るケースは0名となった。 経年の課題であるメンタルヘルスの問題を抱える学生の退学、また2022年度は卒業年次になって退学に至る学生が2名出てしまった。	2022年度退学者数10名のうち、目的喪失4名、メンタル疾患5名、と2つが大きな要因になっている。 メンタルヘルスによる退学はその症状が重篤な場合が多く、学習を継続できないケースであった。 目的意識喪失は早期に発見し、対応することで防げることも多いと感じているため学生の状況把握をより早く行いたい。	学科によって課題は異なるが、3年制教育に移行することにより、就職活動を早期に意識する教育フローから、しっかり基礎を築いていく学びを構築することに注力していく。 次年度の教育運営方針では、①楽しく、ワクワクする授業、②安心・安全の場作りを掲げ、ウェディング業界へのモチベーションを保ち続けられる授業の運営、学科特性に合わせた学生が安心して学校生活を送れる安心・安全の場作りを図っていく。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
退学理由の多くは意欲の低下によるものであり、大半は実習での現場経験がきっかけとなっている。キャリア教育の視点でロードマップにおける実習の動機付けのあり方を見直すとともに、ロードマップの流れに乗れない学生にして、実習先選定や実習開始時期等について配慮することが必要である。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

5-18 (1/2)

5-18 学生相談

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	☐ 専任カウンセラーの配置等相談に関する組織体制を整備しているか ☐ 相談室の設置など相談に関する環境整備を行っているか ☐ 学生に対して、相談室の利用に関する案内を行っているか ☐ 相談記録を適切に保存しているか ☐ 関連医療機関等との連携はあるか ☐ 卒業生からの相談について、適切に対応しているか	5	「滋慶トータルサポートセンター(JTSC)」をグループ校共有の学生相談室とし、学生または担任からの希望によりカウンセリングを受ける事が出来る。また、サポートアンケートを毎年実施し精神面に不安のある学生は JTSC の利用を勧めている。面談の記録としてサポートフレームシートを活用し JTSC と担任による双方の支援を共有している。この JTSC 利用に関しては学生募集段階から告知を始め、ポスター掲示や案内カードの配付等で広く紹介をしている。	特になし		・サポートアンケート
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	☐ 留学生の相談等に対応する担当の教職員を配置しているか ☐ 留学生に対して在籍管理等生活指導を適切に行っているか ☐ 留学生に対し、就職・進学等卒業後の進路に関する指導・支援を適切に行っているか ☐ 留学生に関する指導記録を適切に保存しているか	5	2022 年度は留学生の在籍者はいない。 2021 年度卒業の留学生から引き続き在留資格手続きの相談もあるため、支援は継続している。			

5-18 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
JTSCを設置し、①精神面②学費③健康面などの相談をいつでも受け入れる体制が既に整備され、有効に機能している。また、サポートアンケートを元に問題学生予測を行う事で、早期発見に貢献している。	全教職員がカウンセリングマインドを持ち学生支援を行えるよう、学園内組織(滋慶教育科学研究所)が主催する「JESC 認定教職員カウンセラー資格」を取得させ、カウンセリング技術の統一を図っている。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

5-19 (1/2)
5-19 学生生活

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	☐ 学校独自の奨学金制度を整備しているか ☐ 大規模災害発生時及び家計急変時等に対応する支援制度を整備しているか ☐ 学費の減免、分割納付制度を整備しているか ☐ 公的支援制度も含めた経済的支援制度に関する相談に適切に対応しているか ☐ 全ての経済的支援制度の利用について学生・保護者に十分情報提供しているか ☐ 全ての経済的支援制度の利用について実績を把握しているか	5	学校が窓口となり、日本学生支援機構、東京都育英資金の公的奨学金の手続きを行っている。災害発生時、家計急変時、速やかに学生の状況確認をし、支援を行っている。また、公的奨学金利用者には分割納付を許可している。このような各種支援制度利用に当たっては、募集要項にも記載している。経済的支援制度の把握は、申請書類を取り交わすことで、データ入力にて現状把握を行っている。	特になし		
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	☐ 学校保健計画を定めているか ☐ 学校医を選任しているか ☐ 保健室を整備し専門職員を配置しているか ☐ 定期健康診断を実施して記録を保存しているか ☐ 有所見者の再健診について適切に対応しているか	5	学校保健安全法に基づき4月～7月に全ての学生および教職員に対して定期健康診断を実施している。結果は学校医も保管をしており、有所見者、再検診者の対応を行っている。保健室の整備はあるが対応が難しい状況の際には学校医が速やかに対応をする体制が取れている。	特になし		

5-19 (2/2)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-19-2 続き	☐ 健康に関する啓発及び教育を行っているか ☐ 心身の健康相談に対応する専門職員を配置しているか ☐ 近隣の医療機関との連携はあるか		学校医と定期的に会議を行い時期毎の学生の健康管理対策についてアドバイスをもらっている。提携している医療機関が近隣にあり、連携が図れている。			
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	☐ 遠隔地から就学する学生のための寮を整備しているか ☐ 学生寮の管理体制、委託業務、生活指導体制等は明確になっているか ☐ 学生寮の数、利用人員、充足状況は、明確になっているか	5	寮生の状況については担任ならびに学生サービスセンターと寮長とで連携を図り、学生生活全般の支援を行っている。毎年、寮本部主催の会議を実施し管理体制は明確に把握出来ている。寮本部から生活アドバイザーが各寮を巡回している。	特になし		学生寮パンフレット
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	☐ クラブ活動等の団体の活動状況を把握しているか ☐ 大会への引率、補助金の交付等具体的な支援を行っているか ☐ 大会成績など実績を把握しているか	5	本校では部活動は活動していないが、葛西地区の姉妹校合同でのサークル活動に共同参加している。(2022年度はダンス部のみ実績あり)	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
様々な側面からサポートを必要とする学生が多く、学校もそれに充分応えられるよう学園およびサポート企業のスケールメリットを生かした体制を構築している。その中でも特に学費サポートのニーズは高く、学園内専門の研修を受けたフィナンシャルアドバイザーを常駐させている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

5-20 (1/1)

5-20 保護者との連携

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	☐ 保護者会の開催等、学校の教育活動に関する情報提供を適切に行っているか ☐ 個人面談等の機会を保護者に提供し、面談記録を適切に保存しているか ☐ 学力不足、心理面等の問題解決にあたって、保護者と適切に連携しているか ☐ 緊急時の連絡体制を確保しているか	4	新入生の保護者に対しては4月初旬にオンデマンド方式による保護者会動画を配信している。 事前に学則や出席・成績に関する資料を送付し、開講前に学校ルールについて保護者へ動画を配信させて頂いた。新入生保護者の半数の方が視聴されている。 学力や出席不良による単位未履修の場合は保護者にご来校またはオンライン会議ツールを用い、3者面談を実施している。	問題学生の保護者との連携が取れずに、解決に導けないケースが多いことが課題となっている。	保護者への連絡手段の確保として、保護者のLINE登録を促し、保護者のLINEグループを作成する計画を立てている。 その連絡網を活用し、普段の学校の様子や保護者向け情報の発信を行い、日頃から学校との連携を図っていく。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
単位未履修の危機に及びそうな欠席者、その他の問題発生時にはご家庭への連絡を速やかに図り、時にはご来校いただき事態の共有を図っている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

5-21 (1/2)

5-21 卒業生・社会人

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	☐ 同窓会を組織し、活動状況を把握しているか ☐ 再就職、キャリアアップ等について卒後の相談に適切に対応しているか ☐ 卒業後のキャリアアップのための講座等を開講しているか ☐ 卒業後の研究活動に対する支援を行っているか	3	同窓会については学生便覧に記した通り、委員に就任してもらい組織形成、年1回の同窓会を実施している。今年度はコロナ禍により2023年8月へ延期となった。	コロナの影響が少なくなり、卒業生とのネットワークづくりも再度力を入れていく必要があると捉えている。 また、卒業後のキャリアアップのための講座については継続的な機会を設けられていない。	出席率向上の仕掛けとして、友人を誘って来たいくなるような場所の選定を行っている。 国家検定の2級への受験を希望する学生へ試験対策講座を受講できるよう案内を再開する。	
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	☐ 関連業界・職能団体等と再教育プログラムについて共同開発等を行っているか ☐ 学会・研究会活動において、関連業界等と連携・協力を行っているか	3	産学連携による卒後の再教育は実施できていない。卒業後、国家検定の上位資格取得希望者には対策授業を実施している。	関連業界や職能団体とのプログラムについては現時点では考えられていない。 左記プログラムも毎年数名の参加であり合格実績も出ているが充実はしていない。	同窓会の機会を利用し、卒業生の再教育についてニーズヒアリングを行う。	
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	☐ 社会人経験者の入学に際し、入学前の履修に関する取扱いを学則等に定め、適切に認定しているか ☐ 社会人学生に配慮し、長期履修制度等を導入しているか ☐ 図書室、実習室等の利用において、社会人学生に対し配慮しているか ☐ 社会人学生等に対し、就職等進路相談において個別相談を実施しているか	5	学則にて入学前の履修の単位認定、長期履修制度について定めている。 数多い訳ではないが、社会人入学の学生には個別面談を持って就職サポートを実施。就労につなげている。	特になし		

5-21 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
卒業生に対する同窓会組織の形成は出来ているが、その運用・活用については課題がある。なるべく直近の卒業生から運営委員を選出し、卒業生目線での同窓会企画が出来るよう取り組んでいる。 社会人を特に意識した取り組みは行えていない。現状社会人入学生割合は1割にも満たないが、今後、増えた場合に備えて、体制を構築していく必要がある。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準6 教育環境

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
ウェディング・ブライダルの特化校としての技術を磨くための最新施設や機器を完備し、プロの現場と同じ器具、同じ環境で実習授業を受けさせることで、学生の学習意欲を喚起し、専門就職、資格合格率向上に繋げる。 2017 年 3 月には第二校舎としてゲストハウスの施設を備えた専門実習棟を建設。 2023年3月に本校と実習・授業提携を行っている、有名ウェディング運営企業「ベストアニバーサリー」とコラボレーションし、第 2 校舎エントランスの装飾を改装。 2020 年より本物の結婚式場運営を教育に取り入れる取り組みの中で、週末のオープンキャンパスおよびハウスウェディングのお打合せ日には毎回第 2 校舎を清掃から 1 日を始め、クレンリネスの徹底に重きを置いている。 施設・設備のメンテナンスは主にグループ企業に委託している。学校の窓口は、学生サービスセンターが担当し、不具合があった場合は担当者に連絡し修理を依頼する。学園全体の考えで小さな不具合もすぐに対応することが原則になっている。修理会社は学校の近くにあり、小さな修理でも迅速に対応していただいている。 椅子や机などの機器・備品についても修理や補充が必要な場合は学生サービスセンターが受けて適宜外部への依頼を行っている。		(主な施設) 第一校舎 R 階:屋上ガーデンチャペル 5 階:大教室(バンケット実習室／図書スペース) 4 階:普通教室 3 階:普通教室 2 階:普通教室 1 階:ミーティングルーム・カウンセリングルーム・職員室 第二校舎 3 階:バンケット実習室／ブライズルーム 2 階:チャペル／ホワイエスペース／親族控室 1 階:ドレス実習室

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

6-22 (1/2)

6-22 施設・設備等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	☐ 施設・設備・機器類等は設置基準、関係法令に適合し、かつ、充実しているか ☐ 図書室、実習室など、学生の学習支援のための施設を整備しているか ☐ 図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか ☐ 学生の休憩・食事のためのスペースを確保しているか ☐ 施設・設備のバリアフリー化に取り組んでいるか ☐ 手洗い設備など学校施設内の衛生管理を徹底しているか ☐ 卒業生に施設・設備を提供しているか ☐ 施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等について適切に対応しているか ☐ 施設・設備等の改築・改修・更新計画を定め、適切に執行しているか	4	施設・設備・機器類等は設置基準以上の整備をしている。休憩場所としては一般教室ならびに屋上を開放している。週に 3 日、清掃業者による清掃を行っているが、学生にも掃除当番があり設備は清潔に保たれている。 学生サービスセンターにて施設・設備の日々の点検を行っているが管理会社に定期点検を委託している。改装計画等は、5 ヶ年の事業計画を作成し計画的に行っている。	学生の共有スペースの確保は十分とは言えない。 昼食場所や放課後の施設利用について不便さを感じさせてしまっている。 施設の拡充を図ることは困難であるため、新たに3年制となったウェディング科では科目選択制の新しい学び方を導入する中で、時間割の分散を図り、教室の稼働と学生の登校者数を調整している。	現状は教室の割り当て、一部実習室の昼食時間開放、施設使用願い提出などの学校ルール of 徹底を持って管理をしている。	

6-22 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
実際の結婚式が挙げられる設備となっている為、充実度は高い。実習室に設置されている機器は、現場にいった学生が戸惑う事の無いように実際に多く使用されているものを取り入れている。反面、実習施設が多いため学生が余暇を過ごすスペースの確保には課題を持っている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

6-23 (1/2)

6-23 学外実習、インターンシップ等

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-23-1 学 外 実 習、インターンシッ プ、海外研修等の 実施体制を整備し ているか	☐ 学外実習等について、意義や 教育課程上の位置づけを明確 にしているか ☐ 学外実習等について、実施要 綱・マニュアルを整備し、適切に 運用しているか ☐ 関連業界等との連携による企 業研修等を実施しているか ☐ 学外実習について、成績評価 基準を明確にしているか ☐ 学外実習等について実習機 関の指導者との連絡・協議の機 会を確保しているか ☐ 学外実習等の教育効果につ いて確認しているか ☐ 学校行事の運営等に学生を 積極的に参画させているか ☐ 卒業生・保護者・関連業界 等、また、学生の就職先に行事 の案内をしているか	3	学外実習を教育の核に据え て取り組んでいる。実習に際 し、要綱やマニュアル、評価 基準を明確にし、受け入れ先 等と打合せの上、実施してい る。また、実習先が内定企業 に繋がるケースも多くなって きている。 ウェディングプランナー科で は、全国初となるプランナー アシスタント実習をスタート。 海外研修は、学園の考えで もある「国際教育」を実践す るものであり、今年度は本物 のエンターテインメントを学ぶ 研修としてアメリカ:ラスベガ スの研修を企画していたが 社会情勢により現地コーデ イナーとオンラインで繋ぎ 講演会を実施した。	2022年度はコロナで結婚 式を延期していた方の実施 が立て込んだ年であり、婚礼 件数が非常に多く、実習先 は確保できている。 課題は繁忙による学生への 負担増であり、その中で目 的意識を喪失する学生も出 てきている。	現場実習での課題は、本校 の実習中心カリキュラムの副 作用として根本的な課題か と捉えているが、その中でも 学生の不満や意見を担当教 職員がタイムリーにキャッチ し、現場である企業側と、学 生双方と話し合いの場を設 け、適切な対応を早急に実 施することを心掛けていく。	実習マニュアル 実習規定

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学外実習や海外研修を行うことは、学園の理念である「実学教育」「人間教育」「国際教育」の全 てと関わることになり、その教育効果は大きいものと考えている。	現場実習時間は、競合校と比しても多く設定されている。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

6-24 (1/2)

6-24 防災・安全管理

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的な行動のマニュアルを整備しているか ☐ 施設・建物・設備の耐震化に対応しているか ☐ 防災・消防施設・設備の整備及び保守点検は法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応しているか ☐ 防災(消防)訓練を定期的実施し、記録を保存しているか ☐ 備品の固定等転倒防止など安全管理を徹底しているか ☐ 学生、教職員に防災教育・研修を行っているか	5	防災マニュアルを作成し、災害の種類による対応と防災訓練を行っている。管理会社も訓練に参加し、写真等の記録も残している。防災・防火に関する点検は法令に基づき管理会社が実施をしている。 防災訓練は定期的に実施し、記録を保存している。備品の転倒防止のため、専用器具にて補強し、安全管理を徹底している。年に1度、全校対象にした防災教育を実施している。	特になし		2022年度はAED講習とさすまた講習を実施
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 学校安全計画を策定しているか ☐ 学生の生命と学校財産を加害者から守るための防犯体制を整備し、適切に運用しているか ☐ 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを作成し、適切に運用しているか	5	校舎前に警備員を配置している。警備会社にもすぐに連絡が取れる体制となっている。 授業中に発生した事故については対応方法を掲示するなど、職員間で共有している。 第1校舎裏口はオートロック化、第2校舎1Fには防犯カメラを追加設置。	特になし		

6-24 (2/2)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
6-24-2 続き	☐ 薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行うなど適切に対応しているか ☐ 担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか		薬品等、危険物は学内に保持していない。 学外実習の安全管理体制については損害保険の加入や学生からの連絡マニュアルを整え運用している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
防災訓練は、実際の災害を想定し全教職員・全学生を対象としてシナリオを基に避難経路、第1次避難場所まで確認し、消火訓練も同時に実施している。 安全管理については、警備会社と連携を図り、実行している。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準7 学生の募集と受入れ

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
本校は、東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。 さらに学内に、広告倫理委員会を設置し、広報活動の適正さをチェックしている。広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内、説明会への参加やホームページを活用して学校告知を実施し、教育内容等を正しく知ってもらうように努めている。 これら、すべての広報活動等において収集した個人情報・出願・入学生の個人情報など本校に関わるものの個人情報は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流失および他目的使用のないように管理と研修の徹底を図っている。 入学選考に関しては、スケジュールを募集要項に明示し、決められた日程に実施している。面接・書類内容・選考試験が実施されている場合、その結果を踏まえ、将来ウェディング・ホテル業界で働くことに適性があるか総合的に判断している。 学納金や預かり金、教材の見直しを毎年行っており、学費及び諸経費の無駄な支出をチェックしている。 保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を明示し、期の途中で追加徴収を基本的に行わないようにしている。		

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

7-25 (1/2)

7-25 学生募集活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	☐ 高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供を行っているか ☐ 高等学校等の教職員に対する入学説明会を実施しているか ☐ 教員又は保護者向けの「学校案内」等を作成しているか	4	高等学校等で実施している進学説明会に参加し、本校の教育活動の情報を提供している。本校独自の教員・保護者に向けパンフレットを作成し、学校情報の提供を行っている。	高等学校等の教職員に対する入学説明会の実施していない。AO入試など高等学校から質問を受けることもあるため情報提供が必要と感じている。	保護者・高等学校教員向けのパンフレット作成、学校HPでの入試説明や学費説明の動画発信続けていく。	保護者パンフレット Youtube 動画
7-25-2 学生募集を適切かつ効果的に行っているか	☐ 入学時期に照らし、適切な時期に願書の受付を開始しているか ☐ 専修学校団体が行う自主規制に即した募集活動を行っているか ☐ 志願者等からの入学相談に適切に対応しているか ☐ 学校案内等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に、分かりやすく紹介しているか ☐ 広報活動・学生募集活動において、情報管理等のチェック体制を整備しているか	5	本校は東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同協会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容(推薦入試による受け入れ人数等)を遵守している。 志願者からの問い合わせについては、学校説明会を実施しているほか、入学相談専門のフリーダイヤルを用意している。問い合わせに関して、あいまいな事は入学事務局から改めて連絡するようにしており、不確実な事が外部に伝わらないように徹底している。 パンフレットにも多くの活躍する卒業生を紹介している。	特になし		入学案内 募集要項

7-25 (2/2)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-25-2 続き	☐ 体験入学、オープンキャンパスなどの実施において、多くの参加機会の提供や実施内容の工夫など行っているか ☐ 志望者の状況に応じて多様な試験・選考方法を取入れているか		個人情報の管理は専用の顧客管理システム上へ入力し電子管理を行っている。 体験入学・オープンキャンパスなどは毎週定期的に行っており、時期ごとに志望者の趣向にあわせた内容で実施している。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生募集活動は、学内に個人情報保護委員会を組織し、プライバシーの保護に配慮しながら、学則を基に、その年の入学案内・募集要項の通り、適性に行われていると考えている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

7-26 (1/2)

7-26 入学選考

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	☐ 入学選考基準、方法は、規程等で明確に定めているか ☐ 入学選考等は、規程等に基づき適切に運用しているか ☐ 入学選考の公平性を確保するための合否判定体制を整備しているか	5	入学選考に関しては、入学選考規定に基づいた選考を、決められた日程に実施している。	特になし		
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	☐ 学科毎の合格率・辞退率などの現況を示すデータを蓄積し、適切に管理しているか ☐ 学科毎の入学者の傾向について把握し、授業方法の検討など適切に対応しているか ☐ 学科別応募者数・入学者数の予測数値を算出しているか ☐ 財務等の計画数値と応募者数の予測値等との整合性を図っているか	5	合格者及び辞退者等の現況を示すデータは入試選考毎に蓄積し、適切に管理が出来ている。 毎年入学者アンケートを実施し、入学者の傾向の把握に努め、授業方法などの検討材料としている。 毎月入学者の予測について算出し、事業計画との整合性を図っている。	特になし		

7-26 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
東京都専修学校各種学校協会の定めによるルール、及び学則を元にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしている。	将来の希望分野への適性を見極めるため、入試における面接・面談の比重を多くしている。結果として、学校教育への親和性の高い学生確保に役立っている。

最終更新日付

2023年5月6日

記載責任者

菅野 悠

7-27 (1/1)
7-27 学納金

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	☐ 学納金の算定内容、決定の過程を明確にしているか ☐ 学納金の水準を把握しているか ☐ 学納金等徴収する金額はすべて明示しているか	5	学費の変更がある場合は、学内で検討し、理事会・評議委員会の決定で変更できる。学納金に関してはカリキュラム内容・学校行事・保健衛生等を詳細に見て決定している。 学費は実習費・教材費にいたる細部まで募集要項に明示している。	特になし		
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	☐ 文部科学省通知の趣旨に基づき、入学辞退者に対する授業料の返還の取扱いに対して、募集要項等に明示し、適切に取扱っているか	5	東京都専修学校各種学校協会のルールを基準とし、募集要項等に通知の趣旨に基づき募集要項に返還の基準を明確に記載している。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学納金は適正かつ妥当なものと考えている。また、財務の情報公開も私立学校法の改正の義務付けに合わせて、本校でも平成 17 年 4 月 1 日から法人単位での公開の体制を取っている。学納金が公正に使われているかを世に問うものとなっている。経済的困難な家庭が増えているため、学納金は最も注目される件である。少しでも無駄な要素があると学生の不利益になるので、教材や講師の選定、授業運営を慎重に行っていく必要がある。在学中の納入計画を立てやすいように総額と徴収時期を明示している。	入学以前の募集要項上において、事前に年間必要額を明示しているため、保護者に関しては年間支出計画が立てやすい。また、高等学校在学者に対しても、日本学生支援機構の予約採用のアナウンスや教育ローンの案内をするなど、学費負担者の立場にたったのアドバイスを実施している。 <u>2020 年度より高等教育無償化の支援措置がスタート。申請基準を満たし、対象校となっている。</u>

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準8 財 務

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
毎年5か年の事業計画を策定し、中長期の視点で予算を立てる事になっている。 また収入と支出のバランスは、理事会で毎年確認される。 学園本部の機能は二重チェックの体制となっており、学校の財務体制をしっかりと管理し、健全な学校運営ができるような仕組みを構築している。 また、監査は私立学校法上義務付けられている「監事監査」のほか、「公認会計士による監査」も受けている。 さらに、私立学校法に基づいた財務情報公開が行えるように準備を進めている。	健全な学校運営を行うため、5か年の事業計画ならびに収支予算の策定は、有効かつ重要な手段と考える。しかし近年は環境の変化が激しく、正確な予算作成が難しくなっている一面もある。 このような局面においては、責任者のみならず全ての教職員へ予算管理の意識を定着させる事が必要不可欠である。 その為の、研修や勉強会の充実を図っていく事が急務となる。	当法人の財務情報公開に関しては、下記の予定となっている。 <組織体制> 1. 法人統括責任者 2. 学校統括責任者 3. 学校事務担当者 <公開資料> 1. 財産目録 2. 貸借対照表 3. 収支計算書 4. 事業報告書 5. 監査報告書 <閲覧場所> 法人本部

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

8-28 (1/2)

8-28 財務基盤

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	☐ 応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握しているか ☐ 収入と支出はバランスがとれているか ☐ 貸借対照表の翌年度繰越収入超過額がマイナスになっている場合、それを解消する計画を立てているか ☐ 消費収支計算書の当年度消費収支超過額がマイナスとなっている場合、その原因を正確に把握しているか ☐ 設備投資が過大になっていないか ☐ 負債は返還可能の範囲で妥当な数値となっているか	5	事業計画書の作成にあたり、5 か年の収支予算を立てている。 その中で入学者数、在籍者数、退学者等を勘案して学費明細を作成し、収入予算の推移を把握している。また、毎月本部の財務担当と支出状況を確認している。乖離がある場合には、次月以降の予算執行計画の見直しを行っている。長期借入金の返済計画については、都道府県の基準の範囲内で計画・実行している。これらは理事会・評議員会にて承認、報告がなされている。	特になし		
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	☐ 最近3年間の収支状況(消費収支・資金収支)による財務分析を行っているか ☐ 最近3年間の財産目録・貸借対照表の数値による財務分析を行っているか	5	キャッシュフローに基づいた学校運営を重視しており、経費予算のみでなく施設設備支出、借入金返済等を考慮した資金収支の予算も作成している。	特になし		

8-28 (2/2)

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-28-2 続き	☐ 最近 3 年間の設置基準等に定める負債関係の割合推移データによる償還計画を策定しているか ☐ キャッシュフローの状況を示すデータはあるか ☐ 教育研究費比率、人件費比率の数値は適切な数値になっているか ☐ コスト管理を適切に行っているか ☐ 収支の状況について自己評価しているか ☐ 改善が必要な場合において、今後の財務改善計画を策定しているか		毎月本部の財務担当と支出状況を確認している。乖離がある場合には、次月以降の予算執行計画の見直しを行い、健全・適正な運営がなされている。			

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
将来の安定した財務基盤が保てるよう、毎年 5 か年の予算を組んでいく。 これにより中長期の視点で、予算を管理することができるようになる。	キャッシュフローを重視した運営をしている。 また、単年度の予算を綿密に作成している。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

8-29 (1/1)

8-29 予算・収支計画

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	☐ 予算編成に際して、教育目標、中期計画、事業計画等と整合性を図っているか ☐ 予算の編成過程及び決定過程は明確になっているか	5	5 か年の収支予算を作成し、毎年更新される。将来の学生数予測に基づき、収入予算が作成される。また、新学科構想、設備支出等を勘案し支出予算となる。	特になし		
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	☐ 予算の執行計画を策定しているか ☐ 予算と決算に大きな乖離を生じていないか ☐ 予算超過が見込まれる場合、適切に補正措置を行っているか ☐ 予算規程、経理規程を整備しているか ☐ 予算執行にあたってチェック体制を整備するなど誤りのない適切な会計処理を行っているか	5	収支予算については学校現場のみならず学園本部とも協議しながら作成し、見直しをしている。そのため本部と現場との予算に対する認識のずれはない。 作成された予算は、理事会・評議員会で承認を受ける。 必要に応じ、年次途中で修正予算を組む。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
予算編成の方法については短期的と中長期的に行っているので妥当な方法と考えている。 5年先を見越した中長期的事業計画を毎年立てその中で収支計画を作成しているが、学校、学園本部、理事会・評議員会と複数の目でチェックするためにより現実に即した予算編成になっているものとする。	予算を立てるだけでなく一年の流れの中で随時見直しを図っている。 それにより収支計画が実現可能なものとなり、財務基盤の強化につながっていく事になる。

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

8-30 (1/1)
8-30 監査

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	☐ 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか ☐ 監査報告書を作成し理事会等で報告しているか ☐ 監事の監査に加えて、監査法人による外部監査を実施しているか ☐ 監査時における改善意見について記録し、適切に対応しているか	5	体制を整えるべく、学校法人滋慶学園は公認会計士による監査と監事による監査を実施し、その結果を監査報告書に記載し、理事会ならびに評議員会においてその報告を行っている。	特になし		監査報告書

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
現在のところ、監査報告書は適正な計算書類を作成している旨の意見が述べられており、適正な計算書類を作成していると考えます。 監査を有効に実施してもらうために、証憑書類の整理、計算書類の整備、各種財務書類の整理整頓に努めている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

8-31 (1/1)

8-31 財務情報の公開

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
8-31-1 私立学校法に基づく財務公開体制を整備し、適切に運用しているか	☐ 財務公開規程を整備し、適切に運用しているか ☐ 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書を作成しているか ☐ 財務公開の実績を記録しているか ☐ 公開方法についてホームページに掲載するなど積極的な公開に取り組んでいるか	5	私立学校法に基づく財務情報公開に向けて本部と連携を図り、財務情報公開規程ならびに情報公開マニュアルを作成している。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
財務情報公開に向けて体制整備を行っている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準9 法令等の遵守

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
法令を遵守するという考えを学園の方針に掲げ、教職員全員でその方針を理解し実行に努めている。法人理事会の元に、コンプライアンス委員会を設立し、学校運営が適正かどうか判断している。現状では、学校運営/学科運営が適正かどうかは、各調査においてチェックできるようにしている。 また、組織体制強化やシステム構築にも努めている。 (1)組織体制 財務情報公開組織体制 人情報管理組織体制 告倫理管理組織体制 環境・安全・衛生委員会 進路変更委員会 (2)システム 個人情報管理システム 建物安全管理システム 防災管理システム 物品購入棚卸システム コンピュータ管理システム 各委員会、組織体制、システムで、常に健全な学校・学科運営ができるように努めている。		【調査項目】 1. 学校基本調査(文部科学省) 2. 自己点検・自己評価(私立専門学校等評価研究機構) 3. 学校法人調査(日本私立学校事業団) 4. 専修学校各種学校調査(東京都専修学校各種学校協会) ※調査内容 : 学校の現状／在籍調査／学生・生徒納付金調査／卒業者の就職状況調査／就職希望者内定状況調査／財務状況調査／財務情報公開に関する調査

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

9-32 (1/1)

9-32 関係法令、設置基準等の遵守

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課題	課題の改善方策	参照資料
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	☐ 関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行うとともに、必要な諸届等適切に行っているか ☐ 学校運営に必要な規則・規程等を整備し、適切に運用しているか ☐ セクシュアルハラスメント等ハラスメント防止のための方針を明確化し、防止のための対応マニュアルを策定して適切に運用しているか ☐ 教職員、学生に対し、コンプライアンスに関する相談受付窓口を設置しているか ☐ 教職員、学生に対し、法令遵守に関する研修・教育を行っているか	5	コンプライアンスセンターが法令遵守を行っており適正な学校運営を行っている。 また、法人本部内にコンプライアンス、労務人事、リスクマネジメント等を管理および指導する人員を配置しており、学校担当者と連携を図っている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
会議、研修にて、法令についての確認や読み合わせを実施することで、法令を遵守し、適正な学校運営への意識が図れている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

9-33 (1/1)

9-33 個人情報保護

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	☐ 個人情報保護に関する取扱方針・規程を定め、適切に運用しているか ☐ 大量の個人データを蓄積した電磁記録の取扱いに関し、規程を定め、適切に運用しているか ☐ 学校が開設したサイトの運用にあたって、情報漏えい等の防止策を講じているか ☐ 学生・教職員に個人情報管理に関する啓発及び教育を実施しているか	3	教職員に対して、就業規則等にも個人情報保護を明記するとともに、学園グループをあげて IT リテラシーテストや研修を実施している。また近年問題となっている SNS の取り扱いについても学生ヘリテラシー教育、注意喚起を行っている。個人データの管理取扱い、サイトの運用は関連企業の協力を得て適正に管理をしている。	SNS についての教育は毎年社会的な話題となり、本校としても大きな課題である。 学生の IT リテラシーの格差についても課題がある。	具体例を挙げて職員研修を行い、繰り返し学生への教育を行う。 また、講師会議において勉強会も実施する。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
個人情報に関して教職員への徹底はできているが、学生を含めて学校に関わる全ての人間に徹底をさせる事を目標としている。この問題に関しては既に職員・講師ともに勉強会を実施しているが、今後も継続していく事が重要である。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

9-34 (1/2)

9-34 学校評価

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	☐ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☐ 実施に係る組織体制を整備し、毎年度定期的に全学で取組んでいるか ☐ 評価結果に基づき、学校改善に取り組んでいるか	5	平成17年に自己点検・自己評価についての方針が理事会にて打ち出された。その方針のもと、開校初年度から委員会を立ち上げた。私立専門学校等学校評価検討委員会の基準を元に、本校の自己評価を真摯に行うことを確認し、事業計画にも反映し、学校を挙げて取り組んでいる。	特になし		
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	☐ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☐ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	毎年評価を行い報告書にまとめてあり、ホームページの情報公開ページにおいて公表している。	特になし		
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	☐ 実施に関し、学則及び規程等を整備し実施しているか ☐ 実施に際して組織体制を整備し、実施しているか ☐ 設置課程・学科に関連業界等から委員を適切に選任しているか ☐ 評価結果に基づく学校改善に取り組んでいるか	5	実施にあたり、取り組みを開始している。毎年、委員からの評価と意見を議事録として学校 HP に公表し、次年度の改善項目について記し実施している。	特になし		
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	☐ 評価結果を報告書に取りまとめているか ☐ 評価結果をホームページに掲載するなど広く社会に公表しているか	5	毎年評価を行い報告書にまとめてあり、ホームページの情報公開ページにおいて公表している。	特になし		

9-34 (2/2)

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
毎年自己点検・自己評価を行い課題の洗い出しを行い、その中でも重点項目を絞り問題解決を図っている。合わせて学校関係者評価委員会を立ち上げ、自己点検自己評価への第三者視点を取り入れるよう取り組んでいる。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

9-35 (1/1)

9-35 教育情報の公開

小項目	チェック項目	評価	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	☐ 学校の概要、教育内容、教職員等教育情報を積極的に公開しているか ☐ 学生、保護者、関連業界等広く社会に公開するための方法で公開しているか	5	H29 年 2 月 職業実践専門課程認定に伴い、ホームページにて情報公開を整備。毎年6月に情報更新をおこなっている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
業界との相互理解はますます重要性を増してくる。顧客(業界・学生)のニーズに応えられる教育を行い続けていく為にも、積極的な情報公開は必要不可欠である。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

基準10 社会貢献・地域貢献

総括と課題	今後の改善方策	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
ウェディング業界における課題として、結婚組数の減少が挙げられる。 結婚をしない理由としては、①経済的理由 ②授かり婚 ③セレモニーが嫌いの順となっている。 そこで、本校では校舎を使い、かつ学生が主体となって企画・運営を行う結婚式(ハウスウェディング運営)のサービスの提供を行っている。 これは、ウェディング業界の活性化を図る一助となると共に、学生にとっては極めて教育効果の高い現場を経験する事が可能となる。 このようにして社会や地域貢献への取り組みを行っている。 また環境問題、地球温暖化問題についても、学校、学園グループ全体で積極的に取り組んでおり、学園内での省エネルギーに対する企画・実践案のコンテストなど毎年実施している	学校の資源を活用して、学生が本物の結婚式をプロデュースするハウスウェディング運営は、社会貢献度と教育効果の2つの側面で大きな価値があると感じている。 課題は集客である。毎年実施希望者を確保できる広報手法を確立しなくてはならない。 ウェディング事業に関心を持つ企業とのコラボレーション、学園内の各校・各事業所・保育園などに協力を要請し、地域の方や関係者の伝手を使い、認知拡大を図っていく。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

10-36 (1/2)

10-36 社会貢献・地域貢献

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	☐ 産・学・行政・地域等との連携に関する方針・規程等を整備しているか ☐ 企業や行政と連携した教育プログラムの開発、共同研究の実績はあるか ☐ 国の機関からの委託研究及び雇用促進事業について積極的に受託しているか ☐ 学校施設・設備等を地域・関連業界等・卒業生等に開放しているか ☐ 高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施に教員等を派遣するなど積極的に協力・支援しているか ☐ 学校の実習施設等を活用し高等学校の職業教育等の授業実施に協力・支援しているか ☐ 地域の受講者等を対象とした「生涯学習講座」を開講しているか ☐ 環境問題など重要な社会問題の解決に貢献するための活動を行っているか ☐ 学生・教職員に対し、重要な社会問題に対する問題意識の醸成のための教育、研修に取り組んでいるか	5	本校では学校評価の指標として 4 つの信頼を掲げている。その中に「産業界からの信頼」「地域からの信頼」を掲げ、行動の指針としている。具体的な取り組みとしては校舎を使い、学生が主体となって企画・運営を行う本物の結婚式（ハウスウェディング運営）が挙げられる。 産学連携をコンセプトとしたウェディングプランナー科では、業界企業との連携したプランナーデビューを目指すための教育プログラムと、他校では実施していない形式の実習を整備している。 学園の取り組みとしては、11月に中高生の職業体験を目的とした滋慶学園グループ職業体験フェスタを実施。2日間で約4,000名の来場となった。	特になし		

10-36 (2/2)

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	☐ 海外の教育機関との国際交流の推進に関する方針を定めているか ☐ 海外の教育機関と教職員の人事交流・共同研究等を行っているか ☐ 海外の教育機関と留学生の受入れ、派遣、研修の実施など交流を行っているか ☐ 留学生の受入れのため、学修成果、教育目標を明確化し、体系的な教育課程の編成に取り組んでいるか ☐ 海外教育機関との人事交流、研修の実施など、国際水準の教育力の確保に向け取り組んでいるか ☐ 留学生の受入れを促進するために学校が行う教育課程、教育内容・方法等について国内外に積極的に情報発信を行っているか	3	本校では建学の理念として、実学教育、人間教育、国際教育の 3 つを掲げている。海外研修は、この理念に基づく主要な教育実践の場になっている。 コロナ禍での海外渡航制限があるため、国際教育などの海外への人材交流は難しい状況となっている。	渡航ができないため、国外の情報に触れる教育内容が実施出来ていない。	2022 年度はラスベガス現地のコーディネーターとオンラインで繋ぎ、エンターテインメントの考え方やアメリカのウェディングについて学ぶ機会を作った。 また国内で英会話に触れる機会を設けるため、TOKYO GLOBAL GATEWAY(お台場)での英語実践プログラムを実施した。 2023 年度の後期には海外研修が解禁されるため、ラスベガスへの海外研修実施に向けて準備を進めている。	

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
国際教育は学校としても学生の視野拡張に対する重要な教育機会だと捉えている。海外留学生は戻りつつある社会情勢だが、留学生向けのホテル系学科については姉妹校 東京ホテル観光 & ホスピタリティ専門学校が担うため本校では積極採用は実施しない方針。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

10-37 (1/1)

10-37 ボランティア活動

小項目	チェック項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	課題の改善方策	参照資料
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	☐ ボランティア活動など社会活動について、学校として積極的に奨励しているか ☐ 活動の窓口の設置など、組織的な支援体制を整備しているか ☐ ボランティアの活動実績を把握しているか ☐ ボランティアの活動実績を評価しているか ☐ ボランティアの活動結果を学内で共有しているか	5	例年企業・業界と連携したボランティア活動に取り組んでいる。 毎年2月に実施されている、ウェディング企業が一同に集まる合同説明会(ウェディングジョブ主催)の、運営ボランティアでは本校単独で依頼があり、担当させて頂いている。	特になし		

中項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)
学生の教育的価値とも照らし合わせつつではあるが、ボランティア活動については積極的に情報提供、募集を行っている。	

最終更新日付	2023年5月6日	記載責任者	菅野 悠
--------	-----------	-------	------

2023 年度 重点課題

自ら考え、行動でき、ウェディング・ホテル業界で

長く活躍するプロを養成する専門学校となる

【2つの基本姿勢】

自律 協働

【5つの基本行動】

1. 時間・期限を守ろう
2. 清潔感を保とう
3. 自分から挨拶をしよう
4. おもいやりの心を持とう
5. 丁寧な言葉づかいをしよう の徹底

◆ 産学連携教育「3つの柱」をつくる

- ”① 業務委託契約型の企業インターンシップ 目指す職種の業務を体験的に学べるインターンシップを提携する”
- ”② 外部施設使用の産学連携実践教育 平日の遊休施設を活用し、外部企業の婚礼施設で実践授業を行う”
- ”③ 企業監修型の学内カリキュラム 学内授業に企業から講師を派遣してもらい業界基礎力を身につける”

◆ 業界初！全学科 3 年制のウェディング・ホテル教育

”就職活動の流れに圧迫されない 3 年課程のメリットを活かし、2 年制では出来ない教育カリキュラムを組み上げ、価値を創り上げる

- ▶ ウェディング科 : 科目選択・単位制カリキュラム
- ▶ ウェディングプランナー科 : プランナーアシスタント実習”

◆ 学科特性に合わせた組織運営

- 1 学年 80 名 科目選択制のウェディング科ではクラス担任制度を廃止し「チューター・メンター制」を導入
- 1 学年 40 名 1 クラスのウェディングプランナー科は 担任制とチューター制を併用しフロー教育を強めていく